

2024年3月31日(水)

老球の細道786号

3月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

低気圧で春の嵐がくればライオンのように荒れた天気になって、そのあと移動性高気圧がくれば子羊のように穏やかな天気になることから「3月はライオンのごとく来たりて、子羊のごとく去る」と英国の格言にある。が、ダウンはまだ手放せない。また、3月は学校では別れの季節、卒業式、離任式。爺の世界は毎日が別れの予感。さよならだけが人生さ。

1・テレビから

◆「孫は宝だ！」〈NHK ニュース〉：大相撲春場所で110年ぶりの新入幕優勝を果たした尊富士のお爺さんのインタビューでの言葉。スーパー一番狂わせを成し遂げたわが孫をどれほど誇りに思ったことか。私の孫は私の財布にお金がないことを心配しておもちの500円銀貨を入れてくれた。それを知らずに私はその500円をコンビニで使ってしまった。精算機が作動せず大騒ぎとなった。3月に起きた500円玉事件である。わが孫も宝だ。

2・読書から

◆「教え子たちが競技における“単なる”ゴールという目標に向かって全力を出し切ることができたのを見て、私は涙が止まらなかった」〈『スポーツの戦術入門』：ヤーン・ケルン著：大修館〉：スポーツコーチに携わる者の至福の喜びである。計画を立て、毎日コートに立って選手と悪戦苦闘することは大変あるが、感動の涙を経験できる仕事は一生止められない。

◆「うらかな春は きびしい冬のとから来る かわいいフキノトウは 霜の下で用意された」〈『宮本百合子全集』宮本百合子：河出書房〉：ノートに常に書き留めておいた言葉である。人間は試練の後に一皮むける。宮本百合子の本の片隅に見つけた。その日の夜はフキノトウの天ぷらで酒を味わった。酒の味の良し悪しは呑み手の心情にある（伊集院静）。

2・新聞等から

◆「終活なんてしません。死ぬ準備を始めたら、生きる潜在能力をすぐことになりませんか。生きているうちにめいっぱい生きなくちゃ、もったいないと思います」〈朝日：語る：写真家・操上和美〉：70歳を過ぎてから「終活」という言葉が頭をよぎるが、せつかく腰の痛みがなくなったので腰痛で失った10年を取り戻す。ガンになってもガンガン生きたい。

◆「人が人に関わる仕事において真に重要なのは、関わる人が元気であり、安心していることである。子どもの不安を預かるために、大人の心は安定している必要がある」〈朝日：社会季評：東畑開人〉：つながりの確かさは触れ合った時間の総量と比例する。選手、子どもを育てる大人たちが忙しくて疲れているようでは、子ども、選手の心に希望は灯せない。

◆「思ったことを口に出し、語ったことを実行する」〈朝日：ひと：アレクサンドラ・マトビチュク〉：戦争犯罪を記録するウクライナの人権団体代表の言葉である。不言不実行（冬眠してろ）、有言不実行（口先だけ）、不言実行（かっこいいが逃げ道あり）、有言実行（逃げ道なしで自他ともに納得、満足）。できないことは言わない、言ったことはやる。